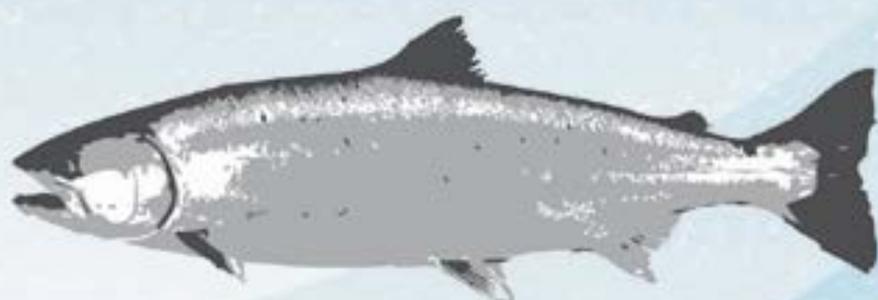


魚と水

Uo to Mizu



52-1

さけます・内水面水産試験場

目次

就任にあたって	・・・・・・・・細野敏彦	1
ご挨拶	・・・・・・・・鈴木正弘	2
なつかしい孵化場時代	・・・・・・・・田嶋良行	3
自己紹介	・・・・・・・・磯野克由	4
ご挨拶	・・・・・・・・加賀谷淳一	5
育児休業中の生活について	・・・・・・・・室岡瑞恵	6
新規採用にあたって	・・・・・・・・越野陽介	7
North Pacific Anadromous Fish Commission シンポジウムに参加して	・・・・・・・・春日井 潔	8
人事往来	・・・・・・・・魚と水編集委員	11

就任にあたって

細野 敏彦

この度、6月1日付け人事異動により、さけます・内水面水産試験場に勤務させていただくこととなりました。昭和55年後志支庁（当時）を振り出しに、当場に着任前担当していた新幹線建設促進を始め、生活交通路線のバス路線維持・確保、国際航空路線の誘致、空港ターミナルビルの建設など交通関係の業務が長く、その他、東京事務所、石狩支庁（当時）、根室振興局などを経験してきましたが、試験研究機関はもとより水産関係の業務は初めてです。しかし、着任して約2週間となりますが、知らない場所に来たという違和感は全くありません。この試験場が研究対象としている魚種が、子供の頃より身近にあり、また、これまでの仕事などでも様々な形で関わりを持ってきたからだと思います。

平成7年からの東京事務所勤務の時代、毎年代々木公園で開催されている北海道フェアの会場で、当時1,500円以上する、私にとっては非常に高く感じた海鮮弁当が飛ぶように売れたことが強く記憶に残っています。また、南は九州から、関東、近畿などの大都市圏、東北地方など全国のデパートで毎年開催される北海道物産展は大変な人気があり、多くの住民の方々が来場されていますが、消費者が最も強く北海道ブランドとしてイメージするのは水産品と言われており、物産展へ足を運ばせる最も大きな要因だと思います。北海道ブランドは、美しい自然景観の中で育ち、そこで水揚げされた魚介類や農産物は安心、安全で、味は期待を裏切らないといった信頼の上に築き上げられ、これが、国内消費や国内外からの観光客を引きつける大きな魅力ではないでしょうか。

人口減少、少子高齢化が進む中、農林水産省の調査では、かつて40代を境に肉から魚へと食の指向が変化していたものが、現在はその傾向も見られず魚離れも急速に進んでいるとの結果が示されています。相当昔になりますが、私が子供の頃は、今ほど食材も調理方法も多くはなく、どの家庭も食事と言えば魚中心で、とりわけ塩をしっかりした「さけ」がメインであることが多かったと記憶しています。その後、日本の高度成長やライフスタイルの変化、冷凍、冷蔵など輸送技術の進歩などの中で、外国からも様々な食材が輸入され、併せて調理方法も多様化して食の選択肢が広がった結果、魚離れという形になったのではないかと思います。しかし、一方で、世界的に見れば、美味しいことに加え健康にも良いといったことから和食がブームとなっていますが、道は、平

成27年度の重点施策として海外成長力を生かした力強い経済の構築を目指し、水産物を含む道産食品輸出1,000億円を目標に、「食の輸出拡大戦略」を策定して取り組みを進めることとしており、水産品などの販路拡大に向けた成果が大いに期待されるところです。

ちなみに、私は魚が大好きです。山漬け、時鮭、マスノスケ、北海シマエビに湯がきたての花咲ガニ、さけぶしで仕立てたつゆで食べるそば等々、根室振興局で味を覚えてしまいました。また、懇談を深めすぎた翌朝のしじみ汁にも体が癒やされます。

その根室振興局には平成22年から勤務していましたが、当時、根室管内のさけ漁獲量が大きく減少し、未だ回復には至ってないと聞いています。それに加え、昨今の新聞で、来年からロシア200海里水域内のさけます流し網漁が禁止され、根室、釧路地域の経済に与える影響は数百億円になると報道されており、元根室の住民として、禁止措置が実行された場合の影響を大変心配しています。

内水面に関しては、内陸育ちの私にとって川や沼などが身近な遊び場で、小学生の頃、カワヤツメ、ドジョウ、モクズガニなどがたくさん生息し、年に数回ですが気が向いたときに捕って食べたことを懐かしく思います。今は数が激減し、中々口にすることができなくなったことがとても残念です。河川や湖沼は人間生活の場に近く、乱獲や産業活動による排出される様々な物質、ダム建設や河川改修など様々な要因により生育環境が変化した結果でしょうか。

こうした中、ここ「さけます・内水面水産試験場」では、消費者や業界ニーズをしっかりと捉え、また、将来を見据えながら資源管理、増養殖、環境保全、そのための技術開発など様々な研究や調査が進められています。これらは地域の産業振興と活性化、北海道の発展を図る上で、さらに私たちの食を守るためにも大変重要だと考えています。その成果が大いに期待しています。そのため、私自身、最適とまでは言えませんが、研究環境が少しでも快適となるよう努めたいと考えています。

どうぞよろしく申し上げます。

最後に、来年3月、北海道新幹線新函館北斗が開業します。帰省や旅行の際は是非ご利用ください。

（副場長 ほその としひこ）

ご挨拶

鈴木 正弘

平成27年6月1日付け人事異動で、さけます・内水面水産試験場に総務課長として勤務することになりました鈴木正弘です。よろしくお願いします。

前任は、秋さけを獲る方の定置漁業権の調整や秋さけ親魚確保対策に大きく関わりを持つ檜山海区漁業調整委員会で、その前の胆振海区漁業調整委員会と併せ6年間勤務しましたので、さけます・内水面水産試験場には大変お世話になってきました。

平成18～20年度には水産林務部水産振興課で試験研究を担当していましたので、さけます・内水面水産試験場の研究の重要性やその難しさなども理解しているつもりです。

近年は秋さけの来遊量の減少や地域的偏りがみられるなど、秋さけを取り巻く環境は厳しくなっており、浜

の期待は益々大きくなっています。

また、当試験場では、秋さけばかりでなく、地域的に重要な資源となっているししゃもやわかさぎ、しじみなどの調査・研究も担っており、広範囲の方々から期待を寄せられています。

この度、縁があり、さけます・内水面水産試験場の一員となりましたので、少しでも多く浜の期待に応えられるよう、縁の下の力持ちとして、頑張っていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

(総務課長 すずき まさひろ)

なつかしい孵化場時代

田嶋 良行

みなさんお久しぶりです。

私は、平成6年4月1日から平成8年3月31日まで、水産孵化場で総務係長として在籍、縁あって約20年振りにさけます・内水面水産試験場へサケのように回帰し、主査（総務）で勤務することになりました、万年係長の田嶋です。どうぞよろしくお願ひします。

総務課のロッカーを見ると、当時の書類が未だ残っており、記憶がよみがえりますが、大した仕事をしてなかったことを反省させられます。

しかし、仕事以外では、野球やバレーボールの大会には積極的に参加し、特にバレーボールでは、道職員による石狩大会で3位という輝かしい成績を収めることができました。当時は、小出さんも若々しくエースアタッカーとして活躍し、私もブロッカーとして貢献しました。

また、場内には独身者が多く、3件の結婚式に出席させていただき、「踊るポンポコリンのお遊戯」、「絶縁状」、「トランスレーター」などの余興の出演や演出を手がけ、万雷の拍手喝采を受けステージで有頂天になりました。

さらに、福利厚生事業では卓球大会、ボーリング大会、ミニバレー大会など実施したところであります。

忘れてはならない出来事がありました。それは、私の向かいの部屋にカナダからの招聘研究員であるジムさん一家が半年間入居したことであります。私も妻も英語が苦手なので、親切にしたいが言葉の壁があつてなかなか思うようにいかなかった思いがあります。

山のように失敗談がありますが、最後のエピソードを紹介します。

ジムさん一家と帰国の前日に茶話会を行い、その中

で昆布醤油の作り方を教えました。

翌日の出発時に孵化場の関係者で公宅前で見送りをすることになり集まっていたところジムさんから「醤油マイ・ルーム」と言うので、私は「昆布醤油、もう作ったの？」と言うと、誰かが「田嶋さんに部屋を見てと言っているよ」と言われ、本当は「ショー・ユー・マイ・ルーム」と言っていたのです。やはり英語は苦手だなと思ひました。ジムさんとの付き合いは万事がこのような事ばかりでした。「ランチ」と「レンチ」発音事件など山ほどありますが、聞きたい方は、私を訪ねてきてほろ酔いセットでお話しします。

やっど、依頼された原稿A4一枚に達することが出来そうなので、最後に水産孵化場から異動後の経歴を紹介します。水産孵化場から蘭越町役場産業課に2年、その後、釧路支庁水産課漁政係長2年、社団法人北海道水産会1年、漁業管理課国際漁業G4年、漁業管理課さけますG2年、水産経営課担い手G4年、漁業管理課指導取締G2年、漁業管理課国際漁業2年そしてこのたびの異動です。

着任してびっくりしたのが、職員の平均年齢の高いことでした。もう、過度な動きをするスポーツ大会は無理かなと感じましたので、別な方法で親睦を深めたいと考えています。

したがって、こんな事、あんな事をしようよと皆さんから声をかけていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(総務課 たじま よしゆき)

自己紹介

磯野 克由

6月1日付けの人事異動で、さけます・内水面水産試験場総務課主査（連携）に配属となりました磯野克由と申します。試験場は全く初めての職場で、分からないことばかりですが、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

前任は、留萌振興局産業振興部水産課で、漁港の整備計画と維持管理を担当しておりました。

採用は土木職なので今までの仕事は、水産基盤整備事業の漁港・漁場などしか行ってきませんでした。これ

から、いろいろとご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、皆様方のご協力をいただきながら、各関係機関の連携をスムーズにしていきたいと考えておりますので、あらためてよろしくお願いいたします。

（総務課 いその かつよし）

ご挨拶

加賀谷 淳一

平成27年6月1日付け後志総合振興局水産課より参りました。

前任地では漁政係に配属され庶務や制度資金（漁業者が設備投資で借りた借金の利息に対して補助金を出す事業など）を主に担当していました。

道職員として採用されてから、ほぼすべての期間水産課又は水産関係の仕事をしておりました。漁政係以外では海区漁業調整委員会書記、漁業管理係、漁港漁村係に配属され、漁業権切替、秋さけ漁獲量の集計、漁業や特別採捕の許可、漁港の整備計画作成と維持管理業務を主に担当していました。

これまでさけます・内水面水産試験場とはほとんど接点がなく、思い起こせば、水産孵化場時代に某管内のししゃも資源管理対策でお世話になった10年以上前に遡ります。

かなり忘れていたので、事実と異なっているかもしれませんが、浜が自主的に資源管理できる方法を普及させることとセットで、ししゃもを人工的に孵化させるなど資源増大の研究（浜や研究者にとっては、こちらがメインだったと思います。）を引き受けていただいたと記憶しております。

当時20代の若造で、補助事業の企画立案と事業の運営など全く未経験だったことから、何をやっていいのかすらわからず、大変な研究課題を押しつけておいて、さしたるサポートもできず、さらに人事異動で最期まで見届けることなく担当から外れることになり、時々思い

出しては申し訳ない気持ちになっていました。

初出勤してから日も浅いですが、感じたことは、皆さんとても元気で親しみを持って接してくださっていることです。朝の挨拶もきちんとしており、とても平和な良い職場だという印象を受けました。

もう一つは、契約職員（旧「臨時職員」）の処遇です。独立行政法人になる前は、臨時職員にも、一部定数（任用枠）が設定されており、それでも最長5ヶ月までしか連続して雇えませんでした。この枠で足りず、さらに臨時職員が必要な場合、最長2ヶ月しか雇えませんでした。

このため、毎月募集、面接、採用、離職の手続きがあって総務も多忙でしたが、実際に研究補助員として仕事をさせる研究員の方々は、作業を一から教えるため、もっと苦労されていたと思います。しかも仕事を覚えた頃には、任用期間満了で退職となり、とても不安定な雇用条件では、応募者も少なく、人材確保に苦労していました。

まだまだわからないことばかりで、ご迷惑をかけることもあると思いますが、いろいろと教わりながら、より良い職場環境になるよう努めていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

（総務課 かがや じゅんいち）

育児休業中の生活について

室岡 瑞恵

平成22年9月から平成26年3月までの約4年半、育児休業を取得しました。育児休業中に息子を3人出産し、夫の転勤に伴って平成23年7月に稚内へ、さらに平成25年7月に苫小牧に引っ越しました。また、学術博士の学位を取得しました。ここでは、あまり語られないことのない育児休業中の生活を紹介したいと思います。

育児で一番つらいのは、なんとといっても寝不足です。夜泣きによる寝不足で、気力も体力も使い果たします。次が、自分の時間が持てないことです。

私の場合、実両親は東京で働いていたため、全く頼ることができませんでした。義父は既に亡くなっており、札幌に住む義母は体が弱く、遠方へ手伝いに来てもらうことはできない状況でした。

さて、日々の生活ですが、子供のうちに外に出て体を動かすことはとても大事だと思っていたので、午前中、家事を一通り済ませたあとは、下の子をおんぶして夏も冬も丸二時間、外に散歩に出かけました。天気の悪い日は育児支援センターに行き、保育士さんにアドバイスをもらったり、同じくらいの子を持つお母さんたちと情報交換をしました。午後は3時間ほど託児所に預けて論文を書きました。託児所は1人1時間600円、正直痛かったです。仕方ありません。休日は夫と二人で1時間交代で育児をすることで論文を書く時間を確保しました。

こうして英文で200ページの博士論文を仕上げましたが、今度は中間審査と本審査の2回、大学まで行かなくてはなりません。中間審査時で長男は2歳、次男は生後3ヶ月でしたので、家族全員で飛行機に乗って大学に行くことにしました。審査中は、長男は近くの託児所に預け、次男は隣の教室で夫にみてもらいました。

また、育児休業中に2回、学会発表に行きました。1回目のとき、子供はまだ1人で、生後10ヶ月でした。場所は幕張で、午前中に発表だったので、前日に夕食もお

風呂も歯磨きも済ませてから、女満別空港の最終便に乗り、そのまま都内のホテルに着いたら寝られるようにしました。学会発表中の20分間は東京に住む知り合いに来てもらってドアの外で抱っこしてもらいました。発表が終わったら、そのまま羽田空港に移動して、飛行機に乗って帰りました。

2回目の学会は京都で一週間、2題を発表しました。このとき、長男は2歳、次男はちょうど1歳になるころでした。この頃は苫小牧に住んでいて、札幌から義母に来てもらうことができたので、長男を一週間みてもらい、私は次男を連れて飛行機で京都に行きました。義母は息子と孫と水入らずで一週間過ごすことができ、夫は育児を義母にまかせて自分の好きなことができ、長男は大好きなおばあちゃんと楽しく過ごし、私は学会という場で羽を伸ばすことができたので、とても有意義でした。人見知りの強い次男は、記念すべき1歳の誕生日に見知らぬ京都の託児所に預けられて朝から晩まで大泣きしていたらしいのは気の毒でしたが……。ちなみに、このときの発表を聞いてくれたフロリダ大学の先生にとっても感心していただき、一緒に本を書くことになりました。本も、育児休業中に書きました。

今は4歳、2歳、8ヶ月の息子の育児をしながら仕事をしています。長男の出産前から5年くらいずっと寝不足だったため、寝不足はもう慣れました。あちこちで親切にいただき、本当に助かりました。これから育児休業を取得する人に、少しでも参考にいただければと思います。

(内水面資源部 むろおか みずえ)

新規採用にあたって

越野 陽介

この度、4月1日付けの人事発令によりまして、さけます・内水面水産試験場に新規採用となりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は、3月までは北海道大学水産学部に博士研究員として在籍していました。研究テーマとしては、大学4年生(平成19年)の研究室配属時から博士課程取得(平成26年)まで一貫して、遡上してきたサケ由来の栄養がどのような生物にどれくらい取り込まれているのか?という研究を行ってきました。

私は大学4年生から修士2年生にかけて、このサケによる物質輸送を知床半島というとてもすばらしいフィールドで目にすることができました。知床半島が世界自然遺産に登録された理由の一つに、海域と陸域の相互作用が顕著である、という文言がありますが、サケによる物質輸送もこの一翼を担っていると考えられています。私がフィールドとしていたルシャ川というところは、知床半島のオホーツク海側に注ぐ河川であり、世界自然遺産地域のほぼ中央に位置しています。この川では多くのサケ科魚類が見られます。川の中はオショロコマで溢れ、手に餌を持って川に差し入れると群がってくるほどです。そして、秋には大量のカラフトマスの産卵遡上が見られ、多い年では足の踏み場もないほどでした。

このカラフトマスを目当てに多くの動物が姿を現すようになりますが、その中でも一際目立つのがヒグマです。多くのヒグマが生息するこの地域では、よくテレビで見かけるような迫力満点の捕食行動を日常的に観察することができるため、まるで日本国内とは思えない光景

でした。ヒグマが四六時中闊歩しているような場所だったので、サンプリング調査では常に気を配っており、とても神経がすり減りました。しかし、この二度と体験できないようなフィールド研究で学び培ったものは、私の研究に対する哲学の原点となっていると思います。

また、私は修士から博士に進学する前に一度就職しており、JFマリンバンクの根室支店に勤務しておりました。ここでは漁協や漁業者向けの融資の仕事が主でしたが、サケの不漁が漁協の経営悪化に直結するのを目の当たりにしました。そして、その影響が漁業者だけでなく加工業者や運送業者などにまで波及することを、業務を通して初めて理解することができました。恥ずかしい話ですが、これまでサケはただの興味の対象でしかなかったため、ここに来て初めてサケの漁業資源としての重要性を認識できた気がしています。わずか1年で退職してしまいましたが、マリンバンクでの仕事は実際に浜に出て漁業者の声を聞くことができた貴重な経験となりました。

現在、サケの漁業生産額は北海道全体のおよそ4分の1であり、北海道の水産業において重要な位置を占めています。しかし、サケを巡る環境は刻々と変化しており、温暖化など気候変動による影響を強く受けているという研究もあるようです。私は、これまで得てきた知識や経験を元に、安定したさけます漁業や増殖事業を行えるように少しでもお役に立てればと思っております。これからどうぞ宜しくお願いいたします。

(さけます資源部 こしの ようすけ)



カラフトマスをくわえたヒグマ

North Pacific Anadromous Fish Commission シンポジウムに参加して

春日井 潔

5月17日から19日に、兵庫県神戸市で開催された North Pacific Anadromous Fish Commission (北太平洋溯河性魚類委員会: 以後 NPAFC) のシンポジウムに参加しました。

NPAFCは北太平洋においてサケマス類(サケ、カラフトマス、サクラマス、ベニザケ、ギンザケ、マスノスケ、スチールヘッド)の保存を目的とした国際機関であり、日本の他にアメリカ、カナダ、ロシア、韓国が参加しています。毎年行われている年次会合に合わせて、今年も国際シンポジウムが開催されました。過去に日本で開催された NPAFC が単独で開催したシンポジウムは1996年に札幌で行われたものにさかのぼります(その内容の一部は NPAFC Bulletin として公表されています; http://www.npafc.org/new/pub_bulletin1.html)。

今回の国際シンポは「Pacific salmon and Steelhead Production in a Changing Climate: Past, Present, and Future (変動する気候下における太平洋サケおよびスチールヘッドの生産: 過去、現在、そして未来)」と題して、口頭発表とポスターセッションが行われました。シンポには以下の5つのセッションがありました。

1. Migration and survival mechanisms of salmonids during critical periods in their marine life history (サケ類の海洋生活期のクリティカルペリオドにおける移動と生残のメカニズム)
 - 1a. Initial period of marine life (海洋生活初期)
 - 1b. Winter period (冬季)
2. Climate change impacts on salmonid production and their marine ecosystems (気候変動がサケ生産や海洋生態系に与える影響)
3. Retrospective analysis of key salmonid populations as indicators of marine ecosystem conditions (海洋生態系の指標としての主要なサケ個体群の遡及的分析)
4. Application of stock identification and models for salmonid population management (サケ個体群管理への系群識別と数理モデルの応用)
 - 4a. Stock identification development and applications for management (管理への系群識別手法の開発と応用)
 - 4b. Model development and applications for management (管理へのモデル開発と応用)

5. Forecasting salmonid production and linked ecosystem in a changing climate (気候変動下におけるサケ類生産と関連する生態系の予測)

さけます・内水面水産試験場から参加したのは、私以外にも永田場長、さけます資源部 宮腰研究主幹、卜部研究主任、道東支場の虎尾主査、實吉研究主任の6名です。この人数は、国内では北海道区水産研究所(北水研)の参加者に次いで多く、当場の立場を物語るものだと思います。会場からの発表は以下の通りでした(発表者には[○]を付けています)。永田場長と私の口頭発表はいずれも初日17日の午前でした。

永田光博[○]・宮腰靖之・藤原 真・春日井 潔・安藤大成・飯嶋亜内・虎尾 充・實吉隼人

Adaptive hatchery strategy to moderate the local variation and reduction of Hokkaido salmon in relation to ocean conditions (セッション1a 口頭: 海洋状況に対応した北海道産サケの地域変動と減少を緩和するための順応的ふ化放流事業戦略)

永田光博[○]・安藤大成・藤原 真・宮腰靖之

Improvement of stocking techniques related to ocean conditions to recover late-run chum salmon being adaptable to warming coastal water (セッション1a ポスター: 温暖化する沿岸水域に適合するサケ後期群資源を回復するための海洋状況に対応したふ化放流技術の改良)

宮腰靖之[○]・藤原 真・虎尾 充・金子信人(北大)・清水宗敬(北大)・永田光博

Early marine residence and growth of juvenile chum and pink salmon in eastern Hokkaido (セッション1a ポスター: 北海道東部におけるサケおよびカラトマス幼稚魚の海洋生活初期の滞留状況と成長)

春日井 潔[○]・實吉隼人・青山智哉・神力義仁・飯嶋亜内・宮腰靖之

Migration of juvenile chum salmon (*Oncorhynchus keta*) near Kushiro on the southeast coast of Hokkaido, northern Japan (セッション1a 口頭: 北日本、

北海道南東岸の釧路付近におけるサケ幼魚の移動状況)

虎尾 充[○]・春日井 潔・永田光博

Migration of juvenile pink salmon *Oncorhynchus gorbuscha* and their adult return to Nemuro Bay, eastern Hokkaido (the southern limit of hatchery programs in Japan (セッション 1a ポスター: カラフトマス幼稚魚の移動と北海道東部根室湾- 日本におけるふ化放流事業の南限- への親魚回帰)

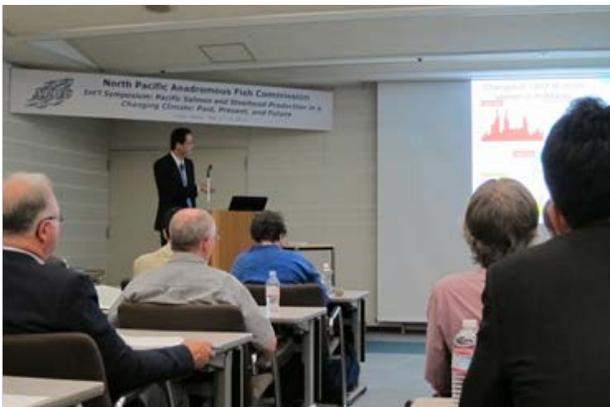
ト部浩一[○]・下田和孝・中村太士 (北大)

Effect of spawning habitat in sustaining population diversity and viability in chum salmon (セッション 2 ポスター: 産卵環境がサケ個体群の多様性維持と生存可能性へ及ぼす効果)

昨年の 11 月に要旨を提出した際、発表の形式を口頭かポスターのどちらでもよい、としたところ、めでたく? 口頭発表に当たってしまいました。セッション 1a はこのシンポにおいて最も応募者が多く (27 題)、まさか口頭に当たるとは思っていなかったのが、光栄であるとともに、少し恐縮しました。ただ、カナダの太平洋生物学研究所の Jim さん (魚と水 本号 p3 参照) と別の件でのメールのやり取りで、初日の早い時間の発表なので、発表後はシンポジウムを楽しめるね、と書いてあるのに安堵感も覚えました。

要旨の提出を終えて、一段落付いたと思っていたら、あれよあれよという間に年が明けて 5 月になっていました。神戸に行く前日までスライドや読み上げ原稿の作成をして、何とか出発しました。

発表はシンポ初日でしたが、英文原稿を棒読みして時間内に終わりました。質問では、Jim さんが非常にゆっくりと質問してくれ (それでも聞き取れなかったのが、北水研の浦和さんに訳してもらったのですが)、何とか持ち



口頭発表する著者

時間をこなすことができました。終わった後では Jim さんに褒められて (お世辞が入っていると思いますが)、少し面はゆい気がしました。



永田場長の口頭発表

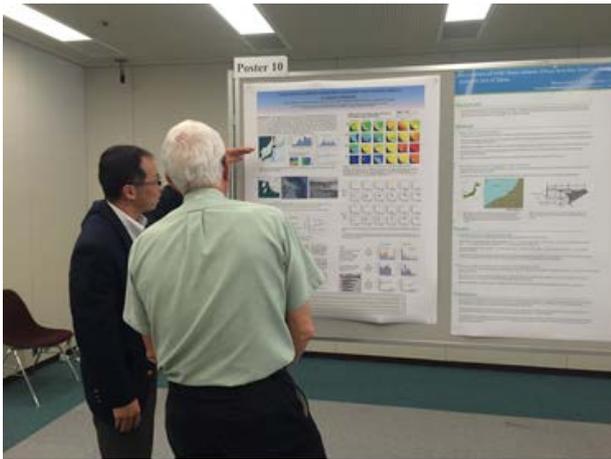
懇親会は初日に神戸市内の酒蔵で行われました。日本酒の飲み放題だったのですが、会場入りしてから懇親会が始まるまで時間がかかり、ロシアの一行がビールを勝手に飲み始めたのを機に皆、ビールを飲み始めてしまいました。開始が遅かったのも、しこたまビールを飲んでしまい、あまりお酒が飲めなかったのが残念でしたが、日本での立食形式の懇親会では我先にと料理の載っているテーブルに群がるのですが、この懇親会では海外からの参加者は並んで列を作り、順番に取って行きます。なかなか列が進まないのですが、その間も会話を楽しんでいました。このような立食形式ではむしろ日本人の方が行儀悪いと思えました。



酒蔵を改装した懇親会場

懇親会では、北海道の水産試験場にも在籍したこともある、広島大学の長澤教授から、北海道の水産試験場でもこのような素晴らしい発表をするようになった、伝えようとする気持ちが伝わってきた、と激賞されました。棒読み原稿でもこのように見てくれる人がいるのだと感激しました。

シンポの合間にはコーヒーブレイクが設けられています。私が参加した 2011 年にカナダのナナイモで行われた NPAFC のワークショップでは、たっぷりの甘いお菓子、フルーツ、コーヒー、ジュースなどが用意され、コーヒー片手に議論を楽しむというスタイルでした。今回もフルーツはなかったのですが、お菓子はふんだんでした。私などはつい欲張って甘いお菓子（ドーナツ、ワッフル）を食べ過ぎてしまい、少々気持ち悪くなってしまいました。



ポスターセッションで説明する宮腰研究主幹

トピックとして、セッション 3 の遠洋区水産研究所の石田行正さんの発表があります。この研究では、東北の宮城県と釧路での 200~6000 年前の古代遺跡（縄文時代~アイヌの擦紋時代）から出土したサケやその他魚類の骨の出現状況から、当時の水温を推測し、その結果から将来の宮城や釧路でのサケの出現を予測するというものでした。この発表終了後にセッションコンピナーの Jimさんと北水研の斎藤さんから、このセッションで最も長い期間（数千年）を対象にしていたということから、**Retrospective** 賞を授与され（もちろんジョークでしょうが）、副賞には日本酒「縄文の響」が贈られる、という粋な計らいもありました。

三日間ひたすら座っているとさすがに疲れます（英語をずっと聞いているのでなおさらです）。それでも海外からの参加者は疲れたそぶりも見せずに議論をしています。彼らのようにタフでなければ世界の研究者相手には通用しないのかもしれませんが。



参加者全員での記念撮影

最終日に東京海洋大学の北田先生（サクラマス市場調査などの統計分析について指導を頂いたこともあります）と宮腰研究主幹とともに夕食をとりました。北田先生は、研究者は数年に 1 本ホームラン級の論文を出すべきで、そのような研究者が複数いるような研究機関は安泰だ、とおっしゃっていました。ホームラン級の論文が載る一流雑誌とは、Nature（ネイチャー）、Science（サイエンス）、PNAS（Proceedings of the National Academy of Sciences 米国科学アカデミー紀要）、Proceedings of the Royal Society of London B（英国王立協会紀要-生物学）だそうです。その他の査読付き論文はヒット、当场でも出している研究報告は、墨に出るだけのデッドボールだそうです。このことを聞いて、われわれはもっと査読付きの雑誌に論文を投稿しないとだめだな、との実感を強くしました。少なくともデッドボールでも出塁できるようにバッターボックスには立つ必要はあるかもしれません。

三日間のシンポジウムで世界のサケ研究者と接して、臆しては何も始まらないし、やはり英語で発信しなければならないと痛感しました。また、北海道のサケの現状については、海外ではまだ十分理解されていないことも実感しました。どんなにつたない英語でも内容さえきちんとしていれば、評価されます。みなさん、どんどん海外に出て行って積極的に英語の発表をしましょう。

（さけます資源部 かすがい きよし）

人事往来

平成27年3月31日付

退職	池田一樹	前	さけます・内水面水産試験場総務課長
退職	川村洋司	前	さけます・内水面水産試験場さけます資源部 専門研究員

平成27年4月1日付

栽培水産試験場総務課長	久末哲也	前	さけます・内水面水産試験場総務課主査（総務）
さけます・内水面水産試験場総務課主査（総務）	田嶋良行	前	北海道水産林務部水産局漁業管理課 国際漁業グループ主査
さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます管理グループ研究職員	越野陽介	新規採用	
さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます研究グループ研究主査	渡辺智治	前	さけます・内水面水産試験場内水面資源部 道東内水面グループ研究主任
さけます・内水面水産試験場内水面資源部 内水面研究グループ研究主任	安藤大成	前	さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます研究グループ研究主任
さけます・内水面水産試験場内水面資源部 内水面研究グループ研究主任	室岡瑞恵	前	網走水産試験場調査研究部管理増殖グループ 研究主任

平成27年5月31日付

退職	小林幹夫	前	さけます・内水面水産試験場副場長
----	------	---	------------------

平成27年6月1日付

法人本部連携推進部連携推進グループ主査	新井雅博	前	さけます・内水面水産試験場総務課主査（連携）
胆振海区漁業調整委員会書記主任	澤田正則	前	さけます・内水面水産試験場総務課主任
さけます・内水面水産試験場副場長	細野敏彦	前	北海道総合政策部交通政策局参事
さけます・内水面水産試験場総務課総務課長	鈴木正弘	前	檜山海区漁業調整委員会事務局長
さけます・内水面水産試験場総務課主査（連携）	磯野克由	前	北海道留萌振興局産業振興部水産課主査（水産振興）
さけます・内水面水産試験場総務課主任	加賀谷淳一	前	北海道後志総合振興局産業振興部水産課漁政係主任

（平成27年6月30日現在）

平成27年6月30日 発行

発行 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場
場長 永田 光博

編集 さけます・内水面水産試験場 出版委員会
恵庭市北柏木町3丁目373
(電話 0123-32-2135)